

第445回: 中央銀行人事に一言

拙稿の第418回「中央入りした金融マン(17年10月25日)」で、筆者は昨秋の党大会選ばれた中央委員/候補委員のなかで、金融経験のある要人を次の通り挙げ、その中で今春の全人代で決まる中国人民銀行(PBC)総裁は蔣超良か郭樹清だろうと予測した。

中央委員 注: 氏名は順不同 PBC=中国人民銀行(中央銀行) 組織名は略称で記載

①郭樹清(61)銀监会・主席、②劉士余(56)証监会・主席、③丁学東(57)国務院秘書長、PBC 通貨政策委員、④蔣超良(60)湖北省党委書記、元農業銀行・董事長

候補委員

⑤易綱(59)PBC 副行長、⑥潘功勝(54)PBC 副行長・外管局長、⑦易会満(53)工商銀行・董事長、⑧田国立(58)建設銀行・董事長、⑨陳四清(60)中国銀行・董事長、⑩趙歆(53)農業銀行・行長、⑪繆建民(52)人民保険集団・党委副書記 保険資産協会会長、⑫王炯(57)中信集団・総経理

その後、第439回「ジグソーパズルがほぼ解けた(18年1月31日)」で、「今般蔣超良の湖北省トップ留任が決まり、彼の目が消えたので、これで銀监会トップの郭樹清の中銀総裁昇格がほぼ固まった」と、勝手に人事を発令してしまった。

ところが今月20日に終了した全人代では、易綱がPBC総裁に内部昇格し(大出世)、郭樹清は銀监会と証监会を合体した新組織、中国銀行保険監督管理委員会的主席に就任(やや出世)、劉士余は証监会主席留任(現状維持)となった。

なぜボクの予想が外れたのか? そのワケは簡単で、易綱は昨秋の共産党大会で204名の中央委員に選ばれず、やっと第125位で候補委員(全172名)となった「小者」だったからである。

中国の常識とこれまでの慣例から、候補委員が大物閣僚のPBC総裁になるとは前代未聞の樁事だ。

金融関係者で候補委員といえば、「次官級」のポストを意味し、4大商業銀行のトップや、PBCのNo2 辺りの指定席であり、所謂閣僚級は原則中央委員でなければおかしいのである...中国では。

だから今春決まるPBC総裁の有力候補は、2012年から候補委員、中央委員を歴任している蔣超良か、彼よりも更に古手で、2007年より党歴を重ねている郭樹清に絞られたと考えるのは当然のことである。

もしも若手の易綱をどうしても総裁に抜擢したければ、彼は昨秋の党大会で中央委員に選ばれなければならなかったのである。

どうしてかうなってしまうのでしょうか?

この数カ月間に何か予期せぬ事態が発生したのだろうか...そんなことを考えていたら、易綱に先を越された銀保监会の郭樹清がPBC党委書記を兼務するとのニュースが昨日飛び込んできた。

ゲッ! どうしたの? その意味が瞬時には呑み込めなかったが、要はこういうことで、タスキ掛けの人事のようだ。(下表の右側記載の時期は党中央入りした時期)

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

PBC	行政組織	党組織	2007年～	2012年～	2017年～
易鋼	総裁	副書記	候補委員
郭樹清	副総裁	書記	候補委員	中央委員	中央委員

PBC の日常業務はアメリカで教鞭をとったこともある金融業務のスペシャリストである易鋼に任せるが、組織の最高責任者は党委書記の郭樹清ということだ。

従って予算や人事、金融に絡む政治判断は必ず郭樹清の承認を得なければならないということらしい。

易鋼の総裁就任に際しては、15年の長きに亘ってPBC総裁を勤め、海外からミスター人民元と呼ばれた周小川前総裁の強い推薦があったようだが、全人代の直前になって彼の党歴の浅さや、アメリカとの距離が近すぎる履歴が指摘された可能性はあるだろう。

中共の歴史を紐解けば、周恩来首相や、毛沢東夫人の江青女史、中共特務組織の生みの親である康生といった超大物ですら、死ぬほど嫌がり、脅えていたのが過去の経歴に関する悪意あるウワサであった。

江青女史が上海で花形女優だったときマフィアのボス黄金榮とできていた動かぬ写真がある、周恩来が国民党に強制され、て転向声明を出したことがある等々、その真偽は不詳だが、仮に誣告であったとしても、共産党の世界ではうまく対処できなければ命取りになる可能性があるのである。

易鋼は1978年に北京大学に入学し、その後1980年から米ハムライン大学に留学、イリノイ大学で経済学博士を取得し、インディアナ大学で助手、副教授、教授まで登り詰めた後の1994年に中国に帰国し、以降PBCの要職を歴任してきた学者肌の人物である。

彼は米国滞在中に数多くの論文を発表しており、中共は彼を評価するにあたり、間違いなくそれらの論文を分析しているはずであり、彼の学術論文と共産主義体制との間の整合性や、彼のあまりに長い米国滞在期間あたりに何らかの指摘や意見があり、妥協の産物として長い党歴を有する郭樹清がお目付け役として急遽PBCに降臨した可能性はある。

勝手なことを書いてしまったが、これが単なる下司の勘繰りであるとすれば、次なる可能性は近い将来、中央銀行と、銀行・証券・保険の監督機関を大合同させる布石なのかもしれない。

一極集中に猛進する習近平政権は合併、合同、統合が大好きなようだから。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成30年3月27日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第 121 号
日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040